

# 岡山県感染症週報 2019年 第16週 (4月15日～4月21日)

【お知らせ】 次週、2019年第17週(4/22～4/28)の感染症週報は、2019年第18週(4/29～5/5)とともに、2019年5月13日(月)にホームページへ掲載いたします。

## ◆2019年 第16週(4/15～4/21)の感染症発生動向(届出数)

### ■全数把握感染症の発生状況

第14週	2類感染症	結核	1名(80代 男)
	5類感染症	梅毒	3名(30代 男 1名・女 1名、50代 男 1名)
第15週	2類感染症	結核	1名(60代 男)
	5類感染症	アメーバ赤痢	1名(60代 男)
		梅毒	1名(40代 男)
		百日咳	1名(30代 男)
第16週	2類感染症	結核	6名(20代 男 1名、60代 男 1名、70代 男 1名、80代 男 1名・女 1名、90代 女 1名)
	5類感染症	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1名(80代 男)
		梅毒	3名(高校生 男 1名、20代 男 1名、30代 女 1名)
		百日咳	2名(高校生 女 1名、20代 女 1名)

### ■定点把握感染症の発生状況

患者報告医療機関数：インフルエンザ定点84、小児科定点54、眼科定点12、STD定点17、基幹定点5

○インフルエンザは、県全体で120名(定点あたり0.88 → 1.43人)の報告があり、前週から増加しました。

○感染性胃腸炎は、県全体で432名(定点あたり5.91 → 8.00人)の報告があり、前週から増加しました。

【第17週 速報】インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が5施設でありました(4月22日)。

1. [風しん](#)は、2019年第16週までに3名の報告がありました。なお、2018年の累計報告数は29名でした。岡山県内の発生状況など詳しくは「[今週の注目感染症](#)」をご覧ください。
2. [百日咳](#)は、2019年第16週までに73名の報告がありました(2018年の同時期：50名)。年代別では小学生(49%)、0～6歳の乳幼児および20歳以上(各19%)が多く報告されています。地域別では、倉敷市(29名、40%)、備前地域(18名、25%)、岡山市(17名、23%)の順に多くなっています。百日咳は、ワクチン未接種の乳幼児がり患すると無呼吸発作などを起こすことがあり、重篤化しやすく注意が必要です。2018年の百日咳サーベイランスから、乳幼児の感染源としては兄弟姉妹が最も多いことが分かっています。予防法は、予防接種とともに、感染者との接触を避けること、流行時のうがいや手洗い、手指の消毒などです。また、感染時は、軽症でも菌の排出があるため『[咳エチケット](#)』を心がけ、感染拡大防止に努めましょう。
3. [インフルエンザ](#)は、県全体で120名(定点あたり0.88 → 1.43人)の報告があり、前週から増加しました。地域別では、倉敷市(2.56人)、岡山市(1.68人)、備前地域(1.40人)の順で定点あたり報告数が多くなっています。県内の発生状況など詳しくは岡山県感染症情報センターホームページ『[岡山県 2018/2019年 インフルエンザ発生状況](#)』、『[入院サーベイランス](#)』、『[インフルエンザとみられる学校等の臨時休業について](#)』をご覧ください。
4. [感染性胃腸炎](#)は、県全体で432名(定点あたり5.91 → 8.00人)の報告があり、前週から増加しました。地域別では、岡山市(15.07人)、真庭地域(8.50人)、備前地域(8.20人)の順で定点あたり報告数が多くなっています。冬から春にかけての感染性胃腸炎の原因は、ノロウイルスやロタウイルスなどのウイルスによるものが多いと言われています。手洗いの徹底や、下痢便・おう吐物の適切な処理など、感染予防と拡大防止に努めてください。感染予防の詳細については『[ノロウイルス感染症とその対応・予防](#)』(国立感染症研究所)や『[ロタウイルスに関するQ&A](#)』(厚生労働省)をご覧ください。

2019年4月27日から5月6日までの10連休における医療提供体制について

以下の岡山県医療推進課のホームページで公開されていますので、ご確認ください。

[2019年4月27日から5月6日までの10連休における医療提供体制に関する情報について\(岡山県医療推進課\)](#)

## 流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ	↗	★★	RSウイルス感染症	↗	★★
咽頭結膜熱	↗	★★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↗	★★★★
感染性胃腸炎	↗	★★	水痘	↗	★
手足口病	↘	★	伝染性紅斑	↘	★
突発性発疹	↘	★	ヘルパンギーナ	↗	★
流行性耳下腺炎	↗	★	急性出血性結膜炎	↗	
流行性角結膜炎	↗	★	細菌性髄膜炎	↗	
無菌性髄膜炎	↗		マイコプラズマ肺炎	↗	★
クラミジア肺炎	↗		感染性胃腸炎(ロタウイルス)	↗	★

【記号の説明】 前週からの推移： ↑：大幅な増加    ↗：増加    →：ほぼ増減なし    ↘：減少    ↓：大幅な減少  
 大幅：前週比100%以上の増減    増加・減少：前週比10～100%未満の増減

発生状況：今週の流行状況を過去5年間で比較し、5段階で表示しています。(発生数が多いことを示すものではありません。)  
 空白：発生なし    ★：わずか    ★★：少し    ★★★：やや多い    ★★★★：多い    ★★★★★：非常に多い

## 今週の注目感染症

### ☆風しん

#### ●風しんとは

風しんは、発熱、発しん、リンパ節腫脹を特徴とするウイルスによる急性の発しん性感染症です。感染経路は飛沫感染で、ヒトからヒトに伝播します。特に妊婦が罹患すると、出生児に先天性風しん症候群（CRS）を発症することがあり、社会的に注目される疾患です。

#### ●症状

感染から14～21日後に発熱、発しん、リンパ節腫脹が出現します（発熱は風しん患者の約半数）。症状は不顕性感染（15～30%程度）から、重篤な合併症併発まで幅広く、特に成人で発症した場合、高熱や発しんが長く続いたり関節痛を認めるなど、小児より重症化することがあります。

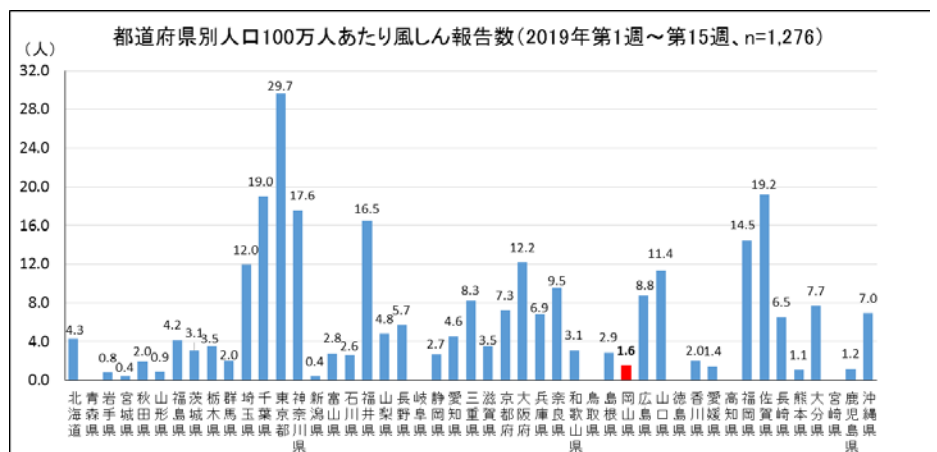
#### ●発生状況

##### ・全国

2018年に全国的に流行しました（2018年の全国の風しん届出数：2,917名。2015～2017年の3年間では年間93～163名）。人口100万人あたりの患者報告数は全国で22.9人となり、東京都が69.9人で最も多く、次いで千葉県61.5人、神奈川県44.0人、福岡県32.7人、埼玉県26.3人と続きました。中国・四国地方では、岡山県：15.1人、広島県：9.8人、山口県：15.7人、香川県：11.3人、愛媛県：5.1人などが報告されました。

患者は、男性が女性の4.3倍と多くを占めており、中でも抗体価が低いとされる、30代～50代の男性が中心となっていました（男性患者全体の約8割）。

2019年に入ってから、全国では第1週から第15週の風しん累積患者報告数は1,276名となり、第14週の1,202名から74名増加しました。



2019年第1週から第15週までの人口100万人あたりの患者報告数は全国で10.0人となり、東京都が29.7人で最も多く、次いで佐賀県19.2人、千葉県19.0人、神奈川県17.6人、福井県16.5人、福岡県14.5人と続いています。患者の9割以上が成人で、男性が女性の3.8倍多く報告されており、特に30代～40代の男性に多くなっています（男性患者全体の6割）。なお、岡山県は、前週と同様、人口100万人あたり1.6人です。中四国地方では、山口県が最も多くなっています（11.4人）。

## ・岡山県

2018年の累計で29名（男性28名、女性1名）の報告があり、年代別では40歳代が11名、50歳代が7名、30歳代が5名の順で多く報告されました。

2019年は第3週に1名（50歳代男性）、第4週に1名（20歳代男性）、第6週に1名（30歳代男性）の報告があり、2018年から始まった全国的な流行における岡山県での患者累計（2019年第16週まで）は32名となりました。

2018年には事業所における発症事例が複数ありました。

<参考：中国・四国地方の状況>

- ・2018年第1週～第52週累積報告数（カッコ内は人口100万人あたりの患者報告数）

岡山県：29名（15.1人）、広島県：28名（9.8人）、山口県：22名（15.7人）、香川県：11名（11.3人）、愛媛県：7名（5.1人）

- ・2019年第1週～第16週（速報値）累積報告数（カッコ内は人口100万人あたりの患者報告数）

岡山県：3名（1.6人）、広島県：26名【前週+1】（9.1人）、山口県：16名（11.4人）、香川県：2名（2.0人）、愛媛県：2名（1.4人）

## ●先天性風しん症候群(CRS)とは

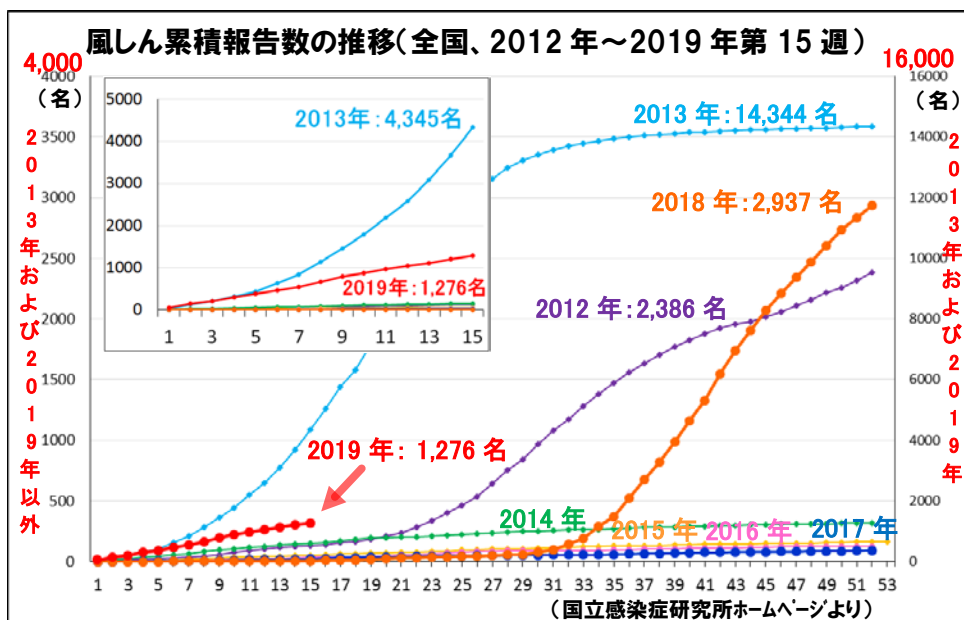
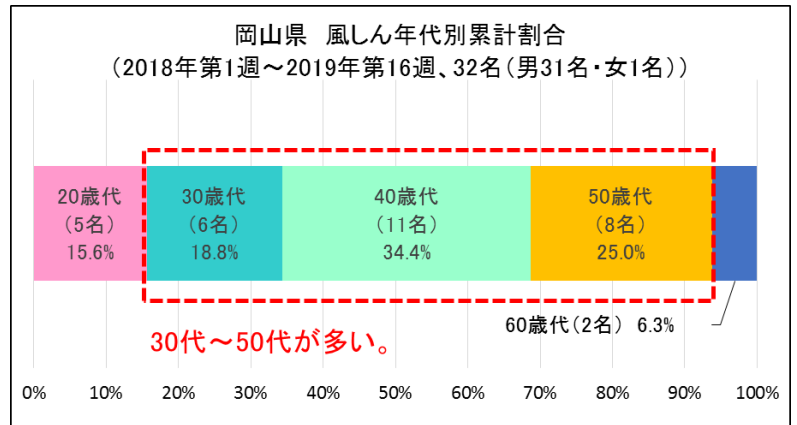
妊娠初期に風しんに罹患すると、風しんウイルスが胎児に感染し、出生児に先天性風しん症候群（CRS）と総称される障がいを引き起こすことがあります。先天性心疾患、難聴、白内障が3大症状ですが、それ以外にも、網膜症、肝脾腫、血小板減少、糖尿病、発育遅延、知的障がい、小眼球など多岐にわたる症状を呈することがあります。全国では、2019年第4週に、1名の先天性風しん症候群の発生報告がありました。

## ●風しんはワクチンで予防できます！

予防接種が唯一の有効な予防手段です。

岡山県でも、全国の状況と同様に、30歳代～50歳代の男性が患者のほとんどを占めており、大きな問題です。

予防接種、抗体検査についてはコラムをご覧ください。⇒コラム「風しんの予防について」



# 風しんの予防について

## 岡山県で風しん患者が発生しています！

### ●風しんはワクチンで予防できます！

妊婦を守る観点から、妊娠を希望する女性や同居する家族で、過去に予防接種を受けていない方や風しんのり患が明らかでない方などは、予防接種についてご検討ください。

また、風しんの抗体保有率が低い30代～50代の男性で、風しんのり患や予防接種が明らかでない方も、合わせてご検討ください。なお、医療機関によってはワクチンが不足している場合もありますので、事前に問い合わせることをお勧めします。

また、妊娠中の女性は予防接種を受けることができないため、特に流行地域においては、抗体を持たない、または抗体価の低い妊婦は、可能な限り人混みを避け、不要不急の外出を控えましょう。

## 風しん抗体検査(無料)を受けましょう！

### <妊娠を希望する女性や同居する家族の方>

岡山県・岡山市・倉敷市では、先天性風しん症候群の予防を目的として、岡山県では**風しんの無料抗体検査**を実施しています。

県内の抗体検査実施医療機関において、窓口で費用を負担することなく検査を受けることができます。検査の詳細は、下記のホームページ

岡山市・倉敷市以外 → [風しんの無料抗体検査が受けられます \(岡山県健康推進課\)](#)

岡山市 → [風しんの無料抗体検査](#)

倉敷市 → [風しん抗体検査について](#)

をご覧ください。

### <1962(昭和37)年4月2日から1979(昭和54)年4月1日までに生まれた男性>

風しんの抗体保有率が低い**1962年4月2日から1979年4月1日までに生まれた男性**に対して、まずは**無料で抗体検査**を受け、抗体価が低い場合は風しんの予防接種を無料で受けることができる制度が、全国的に始まりました(**2019年から2021年度末までの約3年間**)。

詳しくは、厚生労働省のホームページをご覧ください。お住まいの市町村予防接種担当課にお問い合わせください。

→ [風しんの追加的対策について\(厚生労働省\)](#)



[生まれてくる赤ちゃんのために  
風しん抗体検査を受けましょう  
\(岡山県健康推進課\)](#)

詳細は・・・

[風疹急増に関する緊急情報\(2019年\)\(国立感染症研究所\)](#)  
[風しんについて\(厚生労働省\)](#)  
[風疹とは\(国立感染症研究所\)](#)

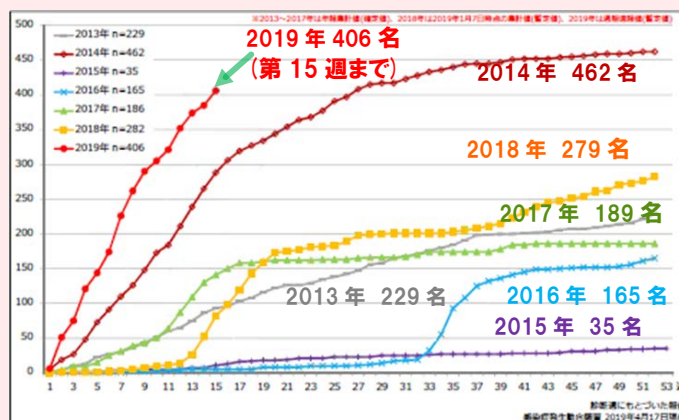
## 注意喚起情報～麻疹感染拡大中!

### ●全国的に麻疹（はしか）の感染患者が確認されています!

現在、大阪府（132名（4月21日まで））や東京都（53名（4月21日まで））、愛知県（35名（4月23日まで））などで感染者数が増加しており、全国的な感染拡大が懸念されています。なお、2019年第15週まで、全国では406名の患者が報告されました。

### ●「麻疹（はしか）」とは

麻疹ウイルスによる急性熱性発疹性疾患です。感染経路は、空気感染、飛沫感染、接触感染など様々で、その感染力は非常に強く、麻疹の免疫がない集団に1人の発症者がいたとすると、12～14人の人が感染するとされています（インフルエンザでは1～2人）。免疫を持っていない人が感染するとほぼ100%発症します。手洗い、マスクのみでは予防できません。



全国の麻疹累積報告数推移（2013年～2019年第15週）

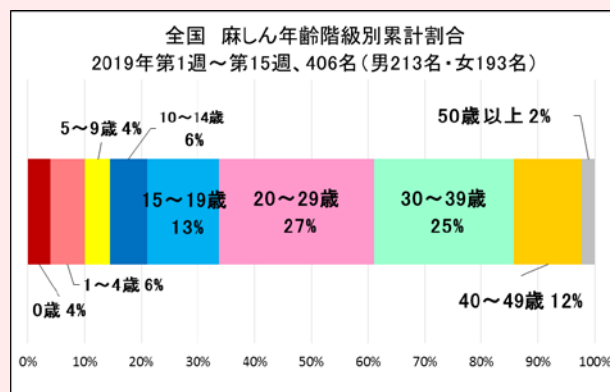
### ●症状

感染すると10～12日後に発熱や咳、鼻水といった風邪のような症状が現れます。38℃前後の発熱が2～4日続いた後、高熱（多くは39.5℃以上）と発疹が出現します。通常は7～10日後には回復しますが、肺炎、中耳炎を合併しやすく、患者1,000人に1人の割合で脳炎を発症し、極めて重篤となることがあります（麻疹の二大死因は肺炎と脳炎です）。また、妊婦が感染すると、母体が重症化する恐れがあり、流産や早産を引き起こす可能性もあります。胎児に奇形を起こすことはないと言われていますが、発育異常や新生児麻疹（分娩時患）などをきたすおそれがあるとされています。なお、麻疹の感染が疑われる場合は、感染拡大防止のため、受診前に医療機関に連絡をし、その指示に従ってください。

### ●麻疹はワクチンで予防できます!

麻疹の予防にはワクチンの接種が重要で、2回接種することでほぼ確実な免疫を得ることができるといわれています。ただし、1990年4月以前に生まれた方は、未接種か、1回接種の場合が多く、1回接種の場合でも免疫が低下している可能性があります。

麻疹感染が重症化しやすい小学校入学前までのお子さんのMRワクチンの接種状況について、今一度ご確認ください。この年代では定期接種2回となっていますので、母子健康手帳を確認の上、接種が行われていない場合は、MRワクチンを接種してください。また、これから妊娠を計画されている方や妊婦の周囲の方（特に28歳以上）は、ワクチン接種についてご検討ください。なお、医療機関によってはMRワクチンが不足している場合もありますので、事前に問い合わせることをお勧めします。



[麻疹について（厚生労働省）](#)      [麻疹とは（国立感染症研究所）](#)

[「妊娠している方へ麻疹（はしか）の流行についてのご注意」（日本産婦人科医会）](#)

医療関係者の方へ⇒ [「医療機関での麻疹対応ガイドライン（第七版）」（国立感染症研究所）](#)

# ゴールデンウィークに 海外へ渡航される方へ



海外には、日本国内に存在しない感染症が多くあります。  
海外に渡航される場合には、渡航先の感染症に対する予防対策  
が必要です。

©岡山県「ももっち・うらっち」

## 出発前の注意

- ・ 感染症に対する正しい知識と予防に関する対策を身に付けましょう。
- ・ 渡航先の感染症の発生状況に関する最新の情報や注意事項を確認しましょう。
- ・ これまで受けた予防接種について確認し、予防対策が不十分なものがあれば、予防接種を受けましょう。

## 旅行中の注意

- ・ 生水、氷、カットフルーツ、サラダなど、火が通っていないものを飲食することは避けましょう。
- ・ 肌の露出を少なくする、虫よけ剤（ディートやイカリジン含有）を使用するなど、蚊やダニに刺されないように注意しましょう。
- ・ 動物には、むやみに近づいたり、触らないようにしましょう。  
（狂犬病、中東呼吸器症候群（MERS）や鳥インフルエンザなどのウイルスをもっていることがあります。）
- ・ 帰宅後は、しっかり手洗いをしましょう。

## 帰国した後に

- ・ 帰国時に発熱や下痢などの症状がある方は、空港または海港の検疫所に相談してください。
- ・ 帰国時に症状がなくても、その後体調が悪くなったときは、早めに医療機関を受診し、その際は必ず渡航先も伝えてください。

海外へ渡航される方に向けた詳細な感染症情報が厚生労働省検疫所のホームページに掲載されています。

[海外へ渡航される皆様へ！（厚生労働省検疫所 FORTH）](#)  
[海外感染症発生情報（厚生労働省検疫所 FORTH）](#)



## 梅毒（性感染症）に気をつけましょう！

梅毒スピロヘータの電子顕微鏡写真  
(国立感染症研究所 HP より)

岡山県は梅毒の患者報告数が多く、2018年の人口100万人当たりの報告数が東京都、大阪府に次ぎ全国3位でした。  
全国的にも2015年(2,690名)、2016年(4,575名)、2017年(5,826名)、2018年(7,001名)と患者は近年増加傾向を示しており、注意が必要な状況です。  
性行為を通じ感染する感染症は梅毒以外にも、例えばHIV、クラミジア、ヘルペス、淋病など多くあります。これらの感染症を防ぐためにセーフセックスを意識するとともに、心当たりがある場合には医療機関の早期受診を心がけましょう。

### 「梅毒」とは

梅毒スピロヘータによっておこる、性感染症として重要な疾患です。早期には皮膚、粘膜に病変をきたしますが、進行により心血管系や、脳・脊髄の実質、髄膜などの神経系臓器など全身臓器に感染がおよび、大きな障がいをもたらします。また妊婦の感染では胎児に様々な障がいをきたします。

#### <病型>

早期顕症Ⅰ期：感染後約3週間後から病原体侵入部位に硬結を生じて次第に潰瘍化します。また、両そ径部のリンパ節が腫脹します。2～3週間で自然に消退します。

早期顕症Ⅱ期：Ⅰ期消退後約4～10週間後から、バラしん（発しん）、膿疱、外陰部のコンジローマ（扁平腫瘤）、脱毛など3年程度様々な症状を繰り返しながら進行します。

無症候期：Ⅰ期とⅡ期の間やⅡ期の発しん消退後など、梅毒血清反応が陽性ですが、臨床症状は認められない期間です。診断・治療の遅れにつながることがあります。

晩期梅毒：無治療の場合、約1/3で症状が発現します。数年～数十年の無症候期の経過後、非特異的肉芽腫様病変（ゴム腫）、心血管系や、脳・神経系臓器など全身の臓器に障がいをもたらします。

先天梅毒：梅毒にり患している母体から胎盤を通じて胎児に伝播される多臓器感染症です。早期先天梅毒の発症年齢は、出生時～生後3カ月で、生後まもなく水疱性発疹、斑状発疹、丘疹状の皮膚病変に加え、鼻閉、全身性リンパ節腫脹、肝脾腫、骨軟骨炎、などの症状が認められます。晩期先天梅毒では、乳幼児期は症状を示さずに経過し、学童期以後に Hutchinson 3 徴候（実質性角膜炎、内耳性難聴、Hutchinson 歯（上前歯の変形））などの症状を呈します。

[日本の梅毒症例の動向について](#) 国立感染症研究所

[ストップ！梅毒](#) 日本性感染症学会

## 保健所別報告患者数 2019年 16週(定点把握)

( 2019/04/15～2019/04/21 )

2019年4月25日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	120	1.43	37	1.68	41	2.56	21	1.40	4	0.33	5	0.83	4	1.33	8	0.80
RSウイルス感染症	16	0.30	6	0.43	4	0.36	-	-	1	0.14	-	-	-	-	5	0.83
咽頭結膜熱	17	0.31	6	0.43	1	0.09	-	-	3	0.43	1	0.25	-	-	6	1.00
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	89	1.65	21	1.50	24	2.18	4	0.40	12	1.71	10	2.50	3	1.50	15	2.50
感染性胃腸炎	432	8.00	211	15.07	70	6.36	82	8.20	6	0.86	21	5.25	17	8.50	25	4.17
水痘	25	0.46	3	0.21	5	0.45	11	1.10	2	0.29	-	-	-	-	4	0.67
手足口病	2	0.04	2	0.14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	9	0.17	3	0.21	2	0.18	-	-	4	0.57	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	16	0.30	6	0.43	3	0.27	1	0.10	4	0.57	2	0.50	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	2	0.04	-	-	-	-	-	-	2	0.29	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	8	0.15	4	0.29	1	0.09	2	0.20	1	0.14	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	7	0.58	3	0.60	1	0.25	3	3.00	-	-	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	1	0.20	-	-	1	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	6	1.20	6	6.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)



保健所別報告患者数 2019年 16週(発生レベル設定疾患)

( 2019/04/15～2019/04/21 )

2019年4月25日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	120	1.43	37	1.68	41	2.56	21	1.40	4	0.33	5	0.83	4	1.33	8	0.80
咽頭結膜熱	17	0.31	6	0.43	1	0.09	-	-	3	0.43	1	0.25	-	-	6	1.00
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	89	1.65	21	1.50	24	2.18	4	0.40	12	1.71	10	2.50	3	1.50	15	2.50
感染性胃腸炎	432	8.00	211	15.07	70	6.36	82	8.20	6	0.86	21	5.25	17	8.50	25	4.17
水痘	25	0.46	3	0.21	5	0.45	11	1.10	2	0.29	-	-	-	-	4	0.67
手足口病	2	0.04	2	0.14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	9	0.17	3	0.21	2	0.18	-	-	4	0.57	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	2	0.04	-	-	-	-	-	-	2	0.29	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	8	0.15	4	0.29	1	0.09	2	0.20	1	0.14	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	7	0.58	3	0.60	1	0.25	3	3.00	-	-	-	-	-	-	-	-

薄黄セルに黒数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2

濃黄セルに赤数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル3 を示しています。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 ( 2019年 第16週 2019/04/15～2019/04/21 )

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～	
インフルエンザ	120	1	5	8	6	4	7	1	9	7	4	2	18	7	14	5	6	5	4	4	3

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～	
RSウイルス感染症	16	2	4	6	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	
咽頭結膜熱	17	-	1	4	3	2	1	-	-	-	-	1	-	5	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	89	-	-	2	8	9	10	7	10	10	7	6	9	3	8
感染性胃腸炎	432	2	45	78	56	38	39	34	26	30	12	8	28	5	31
水痘	25	1	-	-	1	1	8	3	1	3	1	1	2	-	3
手足口病	2	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
伝染性紅斑	9	-	-	1	1	1	2	2	1	-	-	-	1	-	-
突発性発疹	16	-	5	10	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	2	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
流行性耳下腺炎	8	-	-	-	-	-	3	4	-	1	-	-	-	-	

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～	
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	7	-	2	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	6	2	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

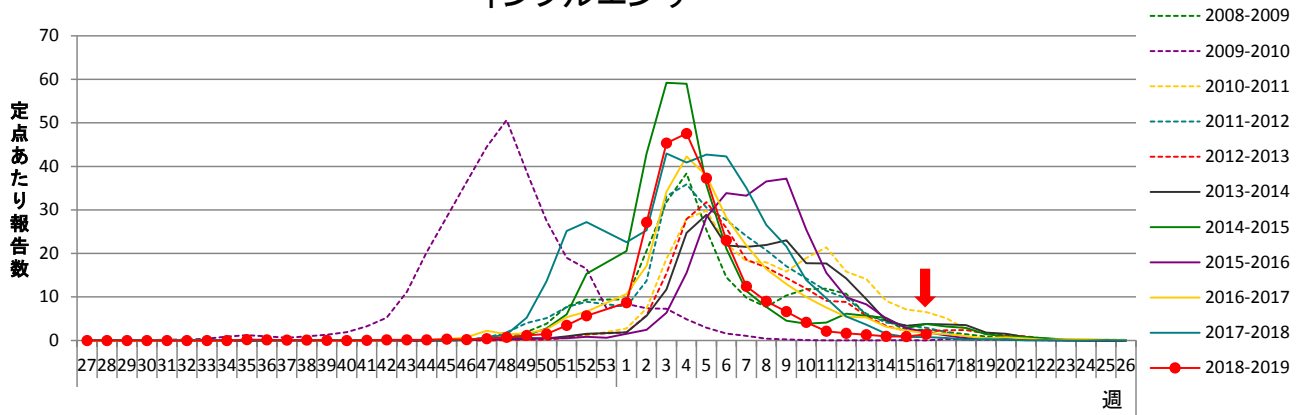
( - : 0 )

# 全数把握 感染症患者発生状況

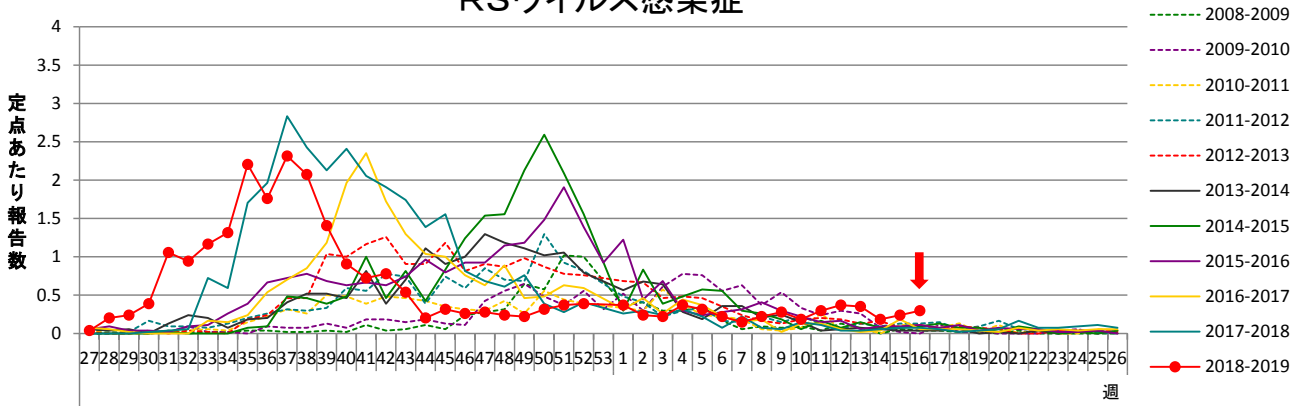
2019年 16週

分類	疾病名	2019		2018	疾病名	2019		2018	疾病名	2019		2018
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	痘そう	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	ペスト	-	-	-	マールブルグ病	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核	6	112	337	ジフテリア	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	中東呼吸器症候群	-	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-
	鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-		-	-	-		-	-	-
三類	コレラ	-	-	-	細菌性赤痢	-	-	16	腸管出血性大腸菌感染症	-	4	70
	腸チフス	-	-	1	パラチフス	-	-	-		-	-	-
四類	E型肝炎	-	-	1	ウエストナイル熱	-	-	-	A型肝炎	-	1	5
	エキノкокクス症	-	-	-	黄熱	-	-	-	オウム病	-	-	-
	オムスク出血熱	-	-	-	回帰熱	-	-	-	キャサヌル森林病	-	-	-
	Q熱	-	-	-	狂犬病	-	-	-	コクシジオイデス症	-	-	-
	サル痘	-	-	-	ジカウイルス感染症	-	-	-	重症熱性血小板減少症候群	-	-	2
	腎症候性出血熱	-	-	-	西部ウマ脳炎	-	-	-	ダニ媒介脳炎	-	-	-
	炭疽	-	-	-	チクングニア熱	-	-	-	つつが虫病	-	-	2
	デング熱	-	1	-	東部ウマ脳炎	-	-	-	鳥インフルエンザ	-	-	-
	ニパウイルス感染症	-	-	-	日本脳炎	-	-	-	日本紅斑熱	-	-	5
	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	Bウイルス病	-	-	-	鼻疽	-	-	-
	ブルセラ症	-	-	-	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-
	発しんチフス	-	-	-	ボツリヌス症	-	1	1	マラリア	-	-	-
	野兔病	-	-	-	ライム病	-	-	-	リッサウイルス感染症	-	-	-
	リフトバレー熱	-	-	-	類鼻疽	-	-	-	レジオネラ症	-	11	83
	レプトスピラ症	-	-	-	ロッキー山紅斑熱	-	-	-		-	-	-
	五類	アメーバ赤痢	-	3	15	ウイルス性肝炎	-	1	5	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染	1	11
急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)		-	1	3	急性脳炎	-	4	6	クリプトスポリジウム症	-	-	-
クロイツフェルト・ヤコブ病		-	-	2	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	-	1	14	後天性免疫不全症候群	-	4	18
ジアルジア症		-	-	1	侵襲性インフルエンザ菌感染症	-	1	2	侵襲性髄膜炎菌感染症	-	-	1
侵襲性肺炎球菌感染症		-	15	45	水痘(入院例に限る。)	-	2	3	先天性風しん症候群	-	-	-
梅毒		3	43	160	播種性クリプトコックス症	-	-	2	破傷風	-	-	2
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症		-	-	-	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	2	-	百日咳	2	73	187
風しん		-	3	29	麻しん	-	-	-	薬剤耐性アシネトバクター感染症	-	-	-

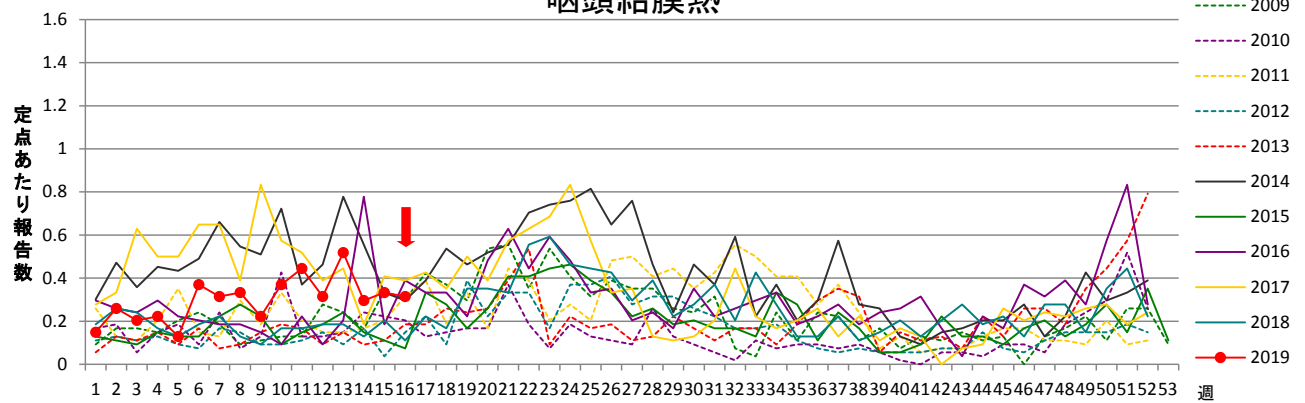
### インフルエンザ



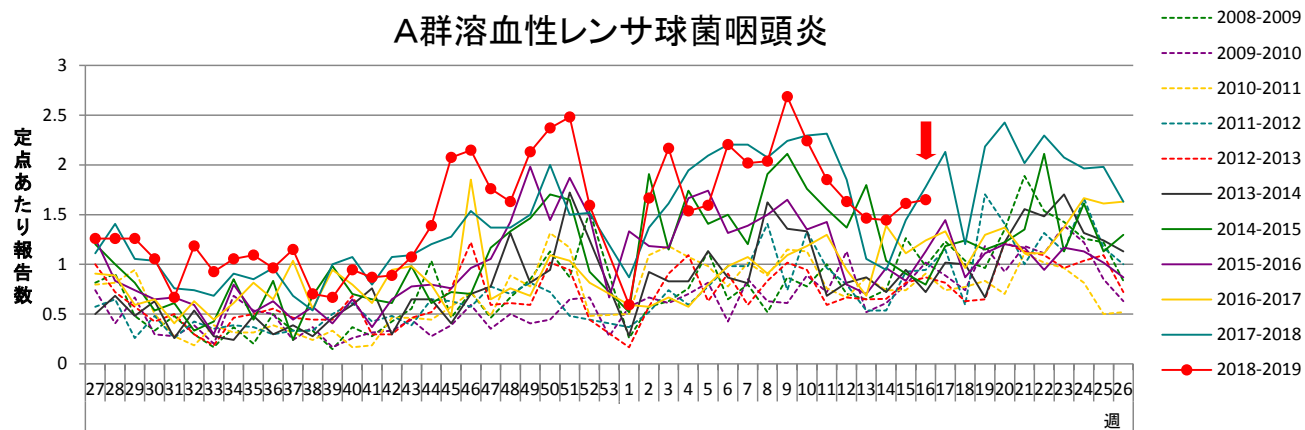
### RSウイルス感染症



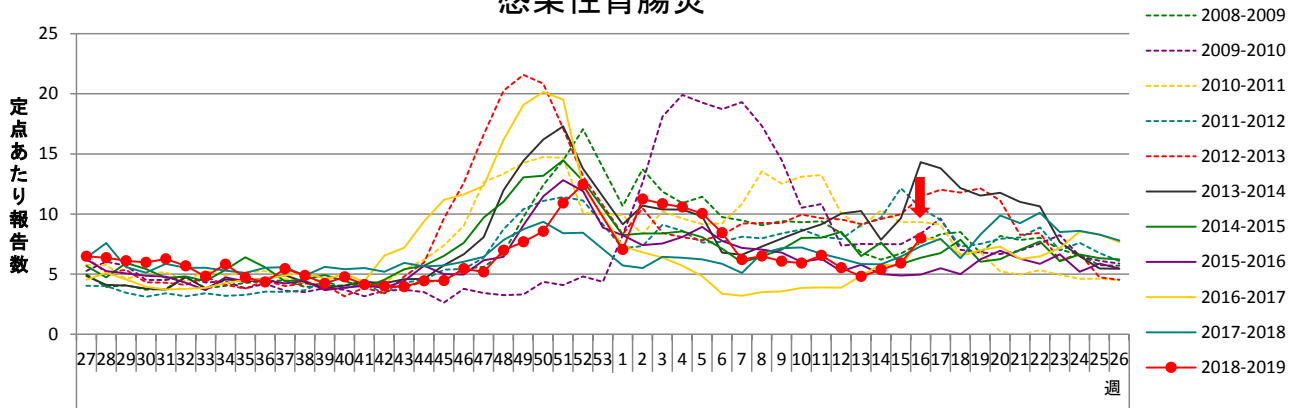
### 咽頭結膜熱



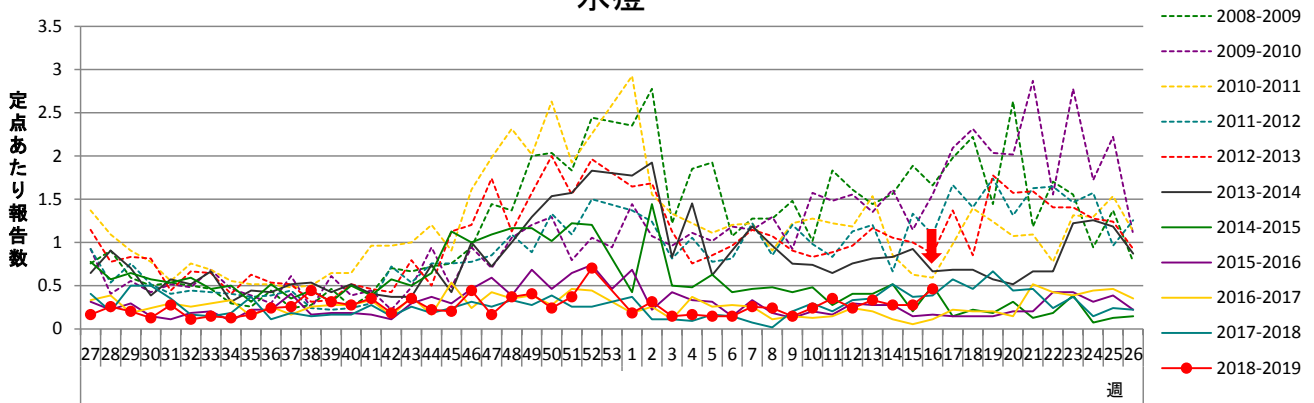
### A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



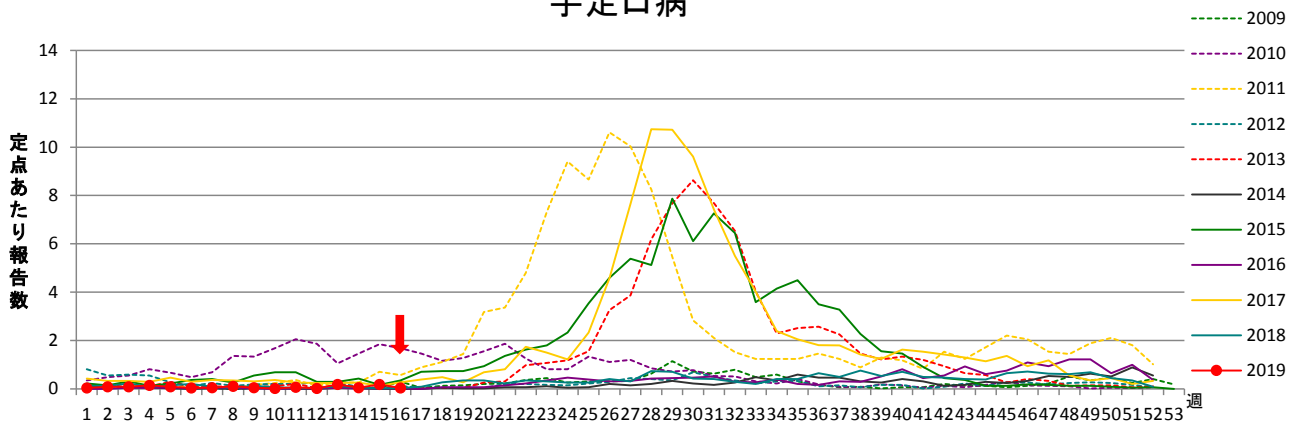
### 感染性胃腸炎



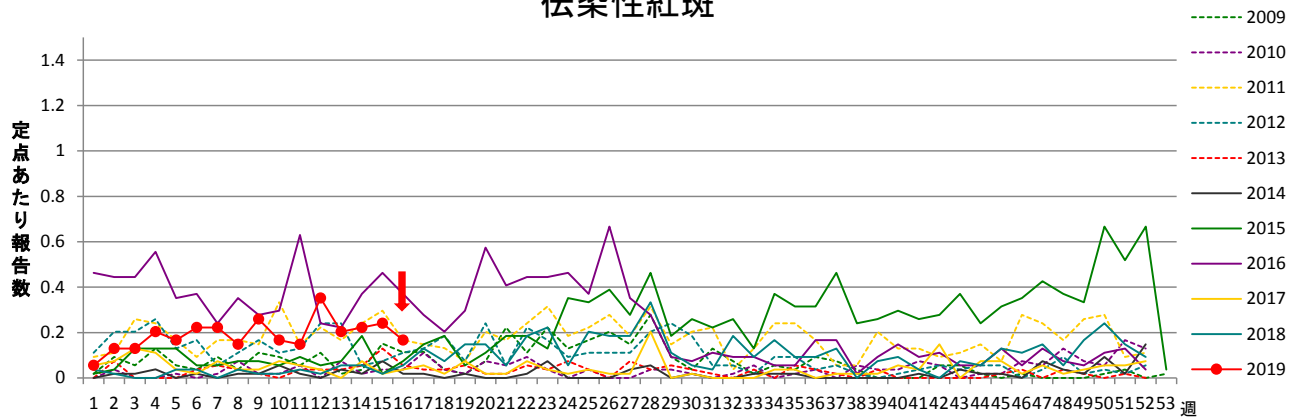
### 水痘



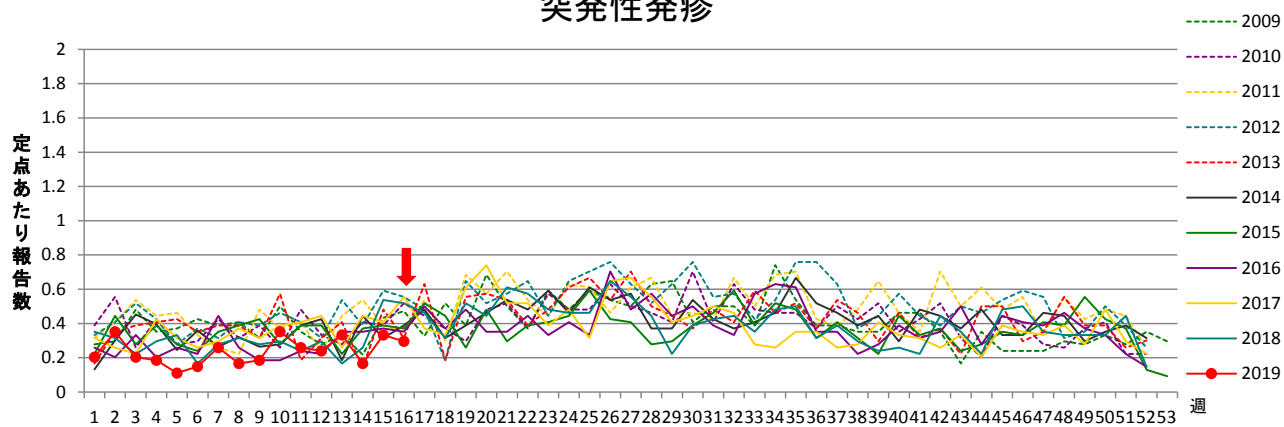
### 手足口病



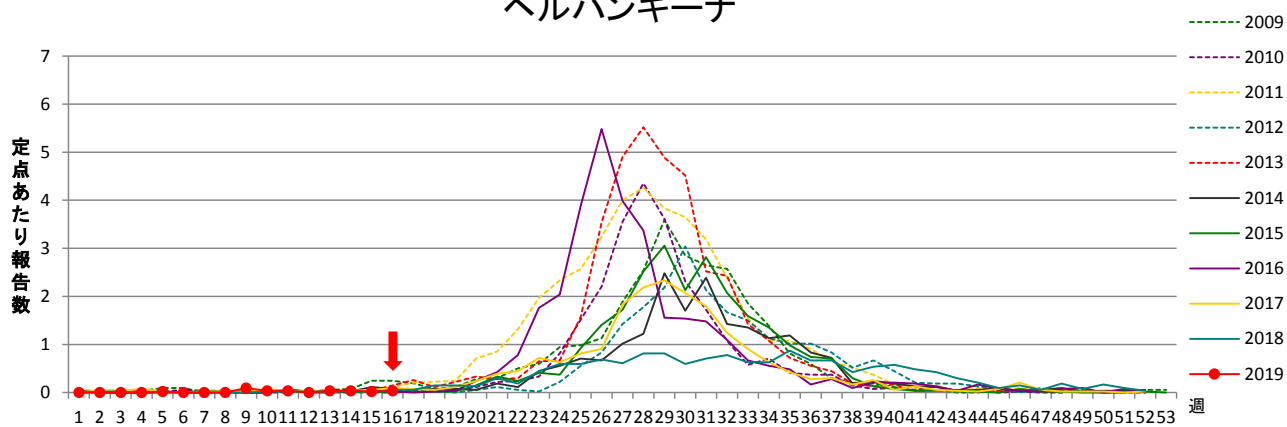
### 伝染性紅斑



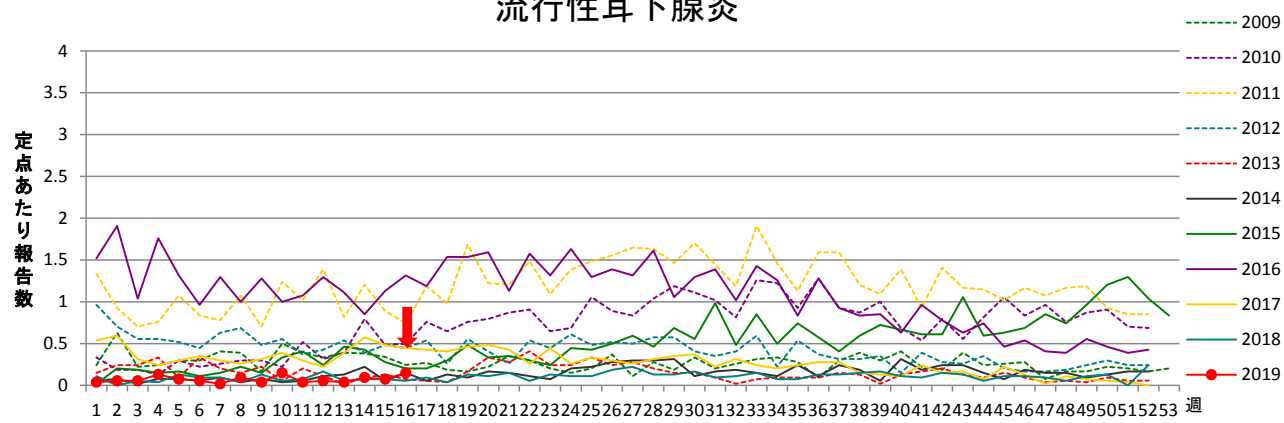
### 突発性発疹



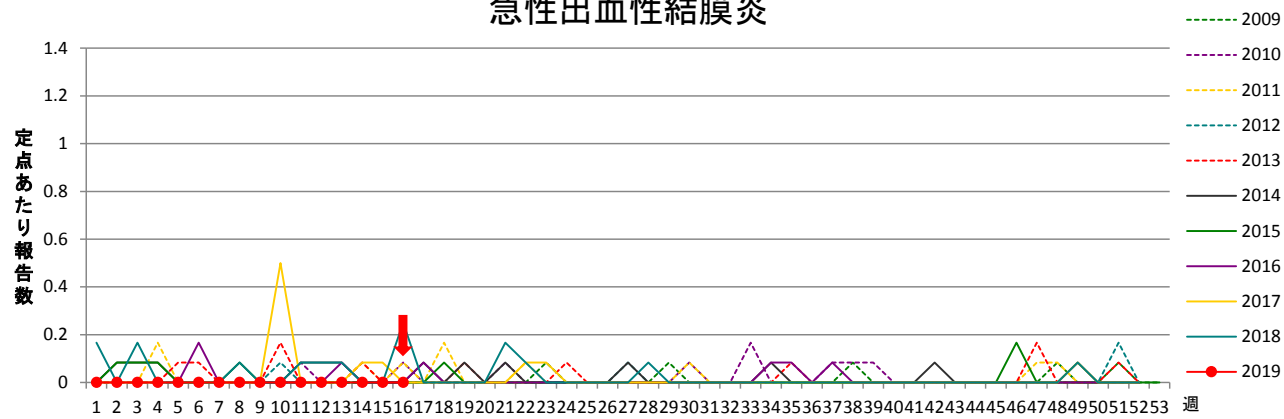
### ヘルパンギーナ



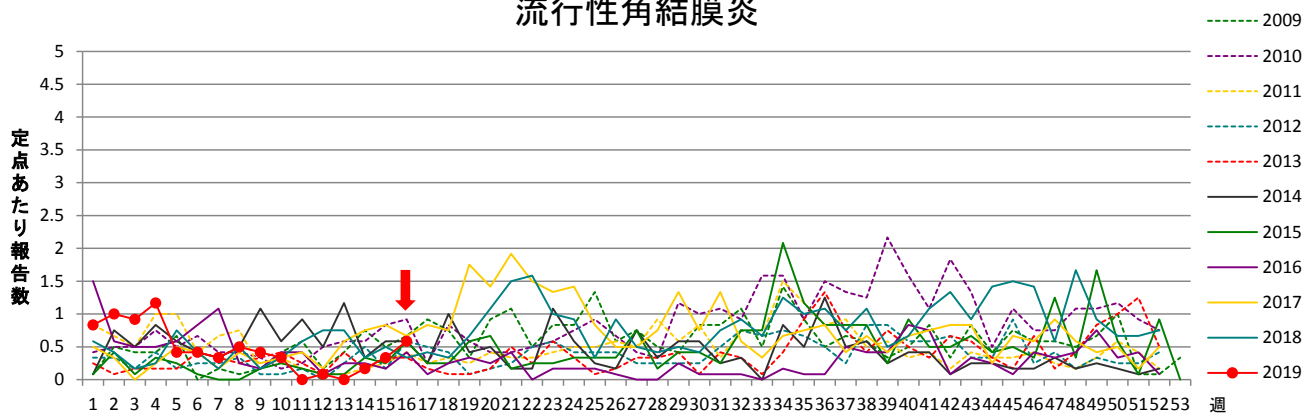
### 流行性耳下腺炎



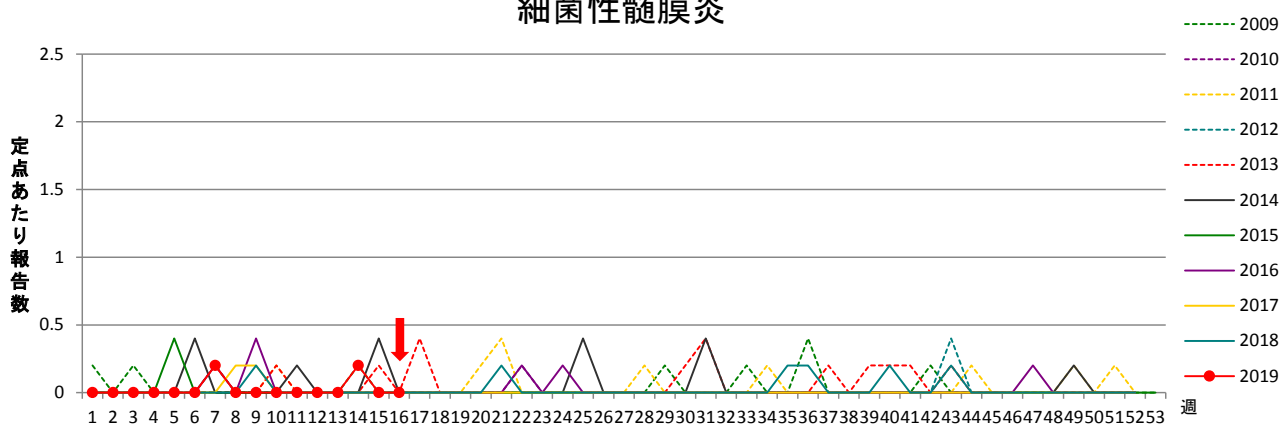
### 急性出血性結膜炎



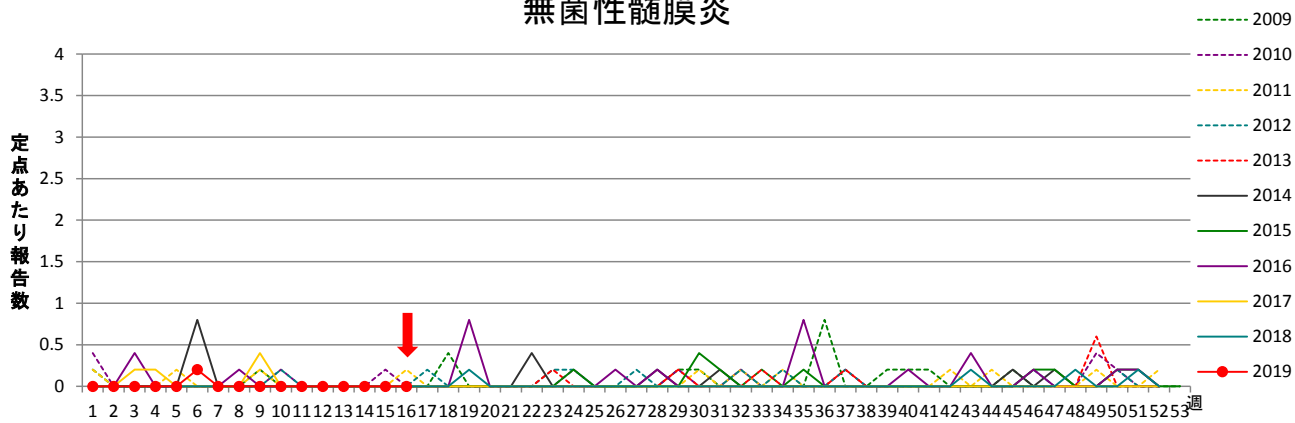
### 流行性角結膜炎



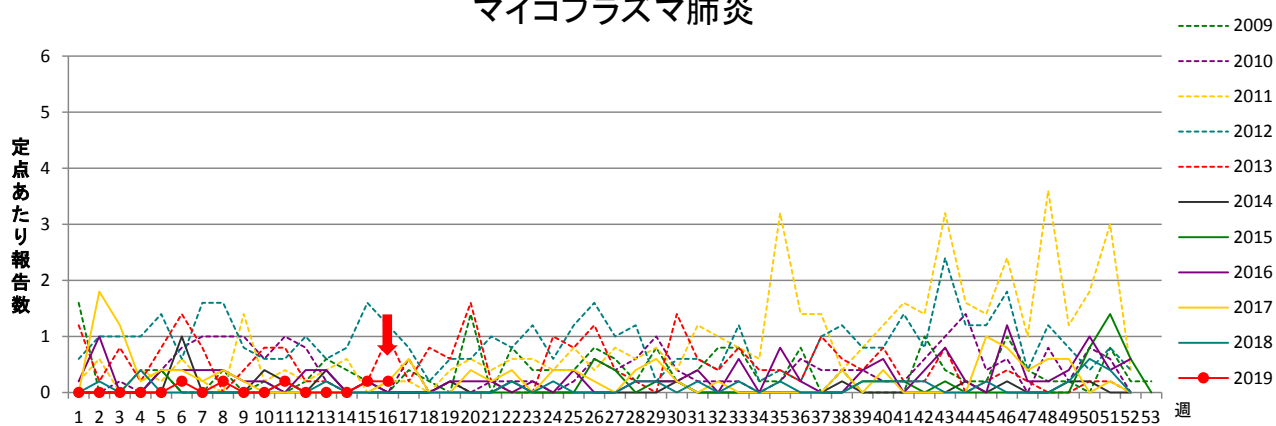
### 細菌性髄膜炎



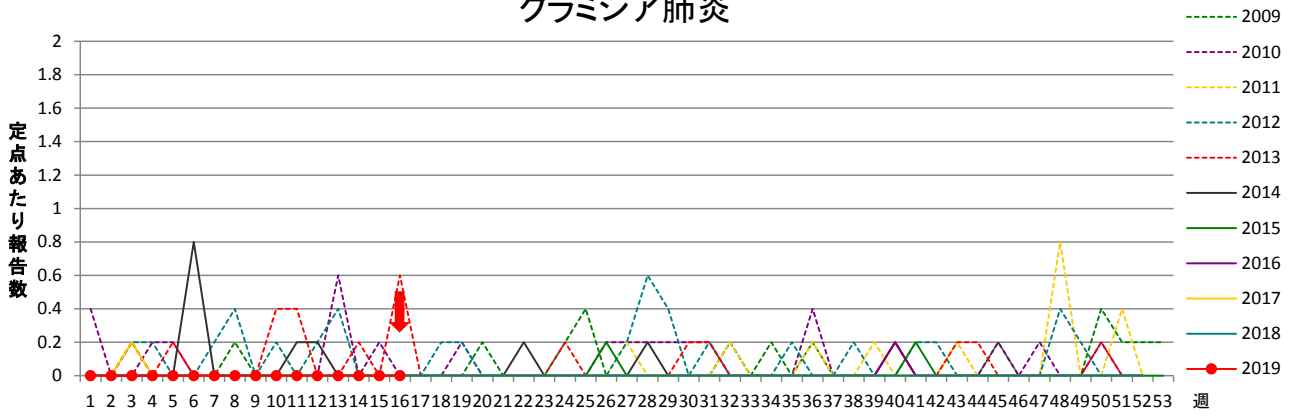
### 無菌性髄膜炎



### マイコプラズマ肺炎



### クラミジア肺炎



### 感染性胃腸炎(ロタウイルス)

